マリアは出かけて、急いで山里の町に行った。（ルカ1／39）

訪れ

Sisters of the Visitation

2023年（42号）

聖母訪問会

そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、
ユダの町に行った。そして、ザカリアの家に入ってエリザベトに挨拶した。
マリアの挨拶をエリザベトが聞いたとき、
その胎内の子がおどった。（ルカ1:39−41a）

総長　米田　ミチル

紛争や戦争が絶えることのない世界・・・ウクライナやガザの戦禍のもとで逃げ惑い、絶望的な表情でその理不尽さを訴える人々の報道を毎日のように見聞きし、言葉を失う日々が続いています。

2002年7月に初めて訪れた東ティモールには、戦禍の爪痕が生々しく残っていました。それは、インドネシアからの独立のためにどれだけ多くの犠牲が捧げられ、激しい破壊が行われたかを物語るものでした。戦後に生まれた私が初めて目にした、独立戦争後の復興を待つ光景であり、戦争がもたらす結果の体験でした。

それから20年を経て、2022年7月にコロナ禍によるパンデミックからようやく渡航が許されるようになり、待ちかねるように東ティモールを訪問する機会を得ました。最初の訪問は、本会が東ティモールに会員を派遣し共同体を置く場所の選定のためであり、昨年の訪問は2023年3月をもって会員の派遣の終了を伝えるためでした。ディリの空港に降り立ちながら、感慨深いものがありました。

本会が東ティモールへ4名の会員を派遣したのは、2003年4月でした。前年にインドネシアから独立を果たしたばかりの同国へ、“急ぎ山里に向かう”ミッションでした。この派遣は、遡ること10年前から本会の医師の会員がサレジオ会司祭からの要請で、毎年のように医療が十分に行き届かない地域に奉仕に出かけていた経緯がありました。またその流れから、1999年に本会とJLMM協働による「東ティモール医療友の会」（AFMET）が設立され、その活動が始まっていたことも大きな要因だったと思います。

派遣された4名は、東ティモールの東側に位置するラウテン県メハラ村に拠点を置き、人々の必要にできる限り応えようと努め、同時に現地出身の会員を育てつつ、約20年間の歩みを刻みました。私はこの20年間に十数回、東ティモールを訪問する機会に恵まれましたが、その度に変化していく様子を肌で感じることができました。それは、21世紀最初の独立国として、戦後の復興に向かう熱いエネルギーが生み出す変化だと思いました。本会の姉妹たちは、その独立後間がない変化していく東ティモールの地方に身を置き、カトリック教会の司牧に奉仕しつつ、人々の必要に応える使徒活動に励みました。語学が堪能なわけでなく、海外宣教の養成も充分でないなかで、必要とされていることに賭けて派遣を生きた姉妹たちを尊いと感謝します。それは、ほんとうにささやかな奉仕であり、時には的確に必要に応えたとは言えないこともあったと思います、東ティモール出身の会員が誕生し、現地で奉仕した時に初めて見えてきた厳しい現実もありました。しかしながら、昨年の夏、派遣の終了を伝えた時に本会の東ティモールでの宣教を最初からサポートして下さっていた司祭が、「あなたたちは、人々の中に入って聖母訪問会らしい貴重なミッションをしてくれた。東ティモールにおいて、現在そのようなミッション・司牧が求められている」と慰留して下さった言葉が心に残っています。

本会は、2020年の総会において、東ティモールへの派遣の停止を決定いたしました。東ティモールでの宣教活動は、本会唯一となった海外宣教の場であり、本会の使命をもっての現地への奉仕が必要なくなったのでもありません。また東ティモール出身の会員も誕生している中での、ほんとうに苦渋の決断でした。最大の理由は、本会の高齢化の中で、東ティモールに共同体として会員を派遣することが困難になったことです。この決定を受けてメハラ修道院の姉妹たちは、同年2月から同時進行のように始まったコロナ禍のなかでも、日本への引き上げの準備を進め、2023年4月13日にメハラ修道院を閉院し、帰国いたしました。

いま改めて、現地そして日本において、多くの善意ある方々に支えられての東ティモールの宣教であったことを思い巡らしています。ほんとうにありがとうございました。

皆さまお一人お一人の上に
神様の豊かな祝福を心からお祈りしています。

2008年
共同体のメンバー 6名

東ティモールでの宣教5年目の頃に
宣教地での思いを綴りました

（宮沢賢治の詩のリズムを拝借して・・・）

村に病人が出たと聞くと、
きれいな水と砂糖を持ってお見舞いに行き、
ハコイ（葬式）があると聞くと、かけつけ、
フェリク（婦人）たちと一緒に食べ物の準備をし、
家族が面倒を見切れない障がい者の所には、
バケツと雑巾とご飯を持って訪問し、
この村から車で6時間離れている首都ディリが
どうも治安が不安定になってきているらしいと聞くと、
村人と一緒にロザリオで祈って、主に憐れみを願う。

田んぼが豊作と聞くと、自分の事のように大喜びして、
雨が続くと、
あのお年寄りの小さなあばら屋は
どうなっているかなと眠れなくなり・・・
修道院の畑の野菜の収穫が多い日には、
トースナイン（農夫）さんと一緒に
手押し車に乗せて配り歩き、
寂しい人、悲しんでいる人がいると聞くと、
若い志願者と家庭を訪問して、
みんなで幸せを分かち、祈り合う。

村ごとに違う言葉が通じなくて悲しくなった日、
文化の違いに行き詰った時には、
夜空に溢れる星を眺めて慰められ・・・
体調がすぐれない時には
自分の限界をわきまえて
独り静かに木陰で休み・・・
遠い日本がふと懐かしくなる時もある。

パパイヤ

食べた後捨てた種からパパイアが実ったり、オクラを普及させたり、
日本からのダリアの花が咲いて村の人にも楽しんでもらったり・・・

足りない共同体を支えて下さる神さまにただただ頭を垂れ、
朝5時からの祈りで毎日がスタートする。
その日の歩みは神さまにしか分からない、
完全に自由な奉献の日々。

（Sr. パウリナ　石川直子　「訪れ」2017年 36号）

YOU RAISE ME UP

元　駐東ティモール日本大使
現　東ティモール名誉総領事
北　原　巖　男

「私が修道女として、そして医師として自分を余すところなく奉献できたのは、“神の慈しみの島東ティモール”であったかもしれません」

（Sr. ノエミ　亀崎善江）

そんな東ティモールで、僕が妻と暮らした2008年からの3年間の大切な宝があります。それは、東ティモールの東端にある小さなメハラ村にて、全ての村人の皆さんに思いやりを持って寄り添い、共に生きる奉献生活に取り組まれている聖母訪問会のシスターズの皆さんとの出会いです。

大使館に記念植樹した白檀

シスターズの皆さんお一人おひとりが、村人の皆さんの救いのために、時間も、都合も、健康をも惜しみなく捧げていらっしゃいました。僕には、とても出来ることではありません。

そうしたシスターズのお姿が、今も現在進行形で、活き活きと心の中に蘇って来ます。

僕は、メハラにおられたSr. パウリナ石川直子さんが書かれていた言葉を今も鮮明に覚えています。

曰く「身近に私達を見ている村人が“シスター達の畑の野菜を売ったらいい”とアドバイスをしてくれました。“どうして”と尋ねると“シスター達の生活を見て来て、シスター達は決して僕たちに嘘をついて僕たちから儲けよう

大使館前にて
大使（左から2人目）ご夫妻に囲まれたシスターたち

としてないことをみんな分かったから”と言われました。あぁ～、やっと村人の仲間に入れてもらえた!!」（「訪れ」2017年（36号））

僕たちは、時々メハラの修道院を訪問させていただきました。あるとき、四旬節の大切な日を知らずに突然伺ってしまいました。それにもかかわらず、シスターズの皆さんは、「いつでもどうぞ！」と大変温かく迎えてくださいました。そして、急遽私たちのために作ってくださったとっておきのお料理の美味しかったこと！

聖母訪問会の総長として、「姉妹たちの“生”によって、綴られてきた<聖母訪問会の真実>を、これからも丁寧に繋ぎつつ、神様への賛美を続けたいと念じます」と、日々懸命にご尽力されておられるSr.パウラ米田ミチルさんには、東ティモールでもお会いしました。米田総長は、「厳しさを実感しています。雨続きでイララロ湖が例年になく広がっている様子を見ました。偶然にも虹がかかり、しかも2本。神様から前進しなさい、共にいますとのメッセージのように感じました」とおっしゃっていました。いろいろ本当に大変と思いますが、頑張ってください！米田総長はじめ訪問会の皆さまに、心から力いっぱいエールをお送り申し上げます！

あれから早や10年以上が過ぎました。まさに「光陰矢の如し」。でも、僕たちにとって何よりも幸せなこと、それは、聖母訪問会のシスターズの皆さんとの出会いが、セピア色の写真の世界ではないことです。

今も、聖母訪問会のシスターズの皆さんの一貫した生き方、情熱に学び、立ち上がる勇気を頂いています。

そして、東ティモールから帰国して立ち上げた「日本東ティモール協会」を通じた、まだ日本の皆さんにとって馴染みの薄い東ティモールのPR活動や防衛大学校への留学生受け入れ、（公財）オイスカでの農業研修生受け入れ、現在見直しが行われている技能実習生制度ではありますが、東ティモール初の技能実習生の高知県受け入れ、2020東京オリンピックで東ティモールのホストタウンとして事前合宿も受け入れた長野県伊那市の市民と東ティモールのアスリートの皆さんとの新たな交流等に、“Neneik, maibe Bebeik”（東ティモールのテトゥン語で、“遅くても、確実に”の意味）で、楽しく取り組んでいます。

聖母訪問会のシスターパウラ米田ミチル総長はじめ、全てのシスターズの皆さんに、勝手ながら、僕の大好きな歌「You raise me up」の歌詞の一部を捧げたいと思います。お時間の許すときに、是非、聴いてみてください。

You raise me up, so I can stand on mountains
You raise me up, to walk on stormy seas
I am strong, when I am on your shoulders
You raise me up, to more than I can be